



聖書 Q & A

はじめに

コロナウイルスの感染拡大は、とどまるところを知らない状況になっています。

2月10日の東京定例会聖書Q&A《3分でわかる！聖書Q234「新型コロナウイルスの広がりをどう理解すべきか」》の中で「世界規模の疫病による被害は、歴史の転換点で度々起こっている。」と説明されていますが、逆の言い方で表現すれば、「疫病が世界の歴史を変えた。」となります。

◎疫病が世界の歴史を変えた事例

時代	病名	影 響
3世紀	キプリアヌスの疫病 (天然痘?)	ローマ帝国で流行して1日に5,000人が亡くなった。終末思想が広がったことや信者が感染者を献身的に看病したことで、キリスト教の布教につながったとされる。
14世紀	黒死病 (腺ペスト)	欧州の人口の1/3が死亡したとされる。労働力不足で賃金が上昇し、土地を所有する農民が出てきた。人口減や都市への移住により各地で廃村が相次いだ。
16世紀	天然痘	スペインから中南米に持ち込まれた。免疫のない先住民に感染が拡大し、人口の9割が死亡したとされる。アステカ帝国やインカ帝国が滅びる要因になったと見られている。
19世紀	コレラ	世界中で流行を繰り返した。公衆衛生への意識が高まり、ロンドンでは1863年に下水道が整備された。日本でもコレラ流行を受け、1881年に東京・神田で近代下水道が建設された。
1918年～20年	スペイン風邪	世界中で5,000万人が死亡したとされる。一般市民がマスクを着用するようになり、学校が休校となった。医療制度が見直され、イギリスでは国民皆保険制度の設立につながった。

5月8日読売新聞朝刊「変わる世界 新型コロナ―都市脱出 人口の逆流」記事内の図表「感染症は何度も大きな変革を引き起こしてきた」より

Q & A

Q. 疫病がキリスト教の歴史を変えたことがあると聞きましたが、どのような事が起こったのでしょうか。

A. キリスト教の歴史を紐解くと、疫病に苦しむ人々に対するクリスチャンの献身的な看病や終末思想の広まりにより、キリスト教の伸張につながったことがある半面、カトリック教会の権威失墜につながったりしたことがありました。

1	病名	時代	状況	影響
	天然痘（他の病気との説もある。） 当時「キプリアヌスの疫病」と呼ばれた。	2世紀～3世紀	A.D.165年、ローマ帝国とパルティア帝国との戦争中にローマ兵の中に天然痘が発生⇒ローマ退却⇒ローマ帝国内に広がる。 当時のローマ帝国の人口約5,000万人（推定）のうち、約500万人～750万人が亡くなったと言われている。	◎ローマ帝国内のクリスチャンは、感染者を献身的に看病し、死におののいている人々に向かって「恐れなくてもよい。イエス・キリストの十字架と復活によって死を恐れない世界があるのだ。」と語り始め、多くの励ましと慰めを与えた。 ◎当時、この疫病は世界の終末を告げる予兆と考えられた。人々の間には、感染者の悲惨な姿や死者を火葬する光景に地獄のイメージが重なって、終末への恐怖心が広がり、死後に地獄に落ちたくないという思いから、キリスト教の信者が増えたと見られている。 ◎ローマ帝国内でクリスチャンが爆発的に増え、もはや権力をもって押さえることができなくなった。⇒A.D.313年ローマ帝国は、それまで弾圧してきたキリスト教を公認。実に300年に及ぶ迫害が終わった。
2	ペスト 当時は「黒死病」として恐れられた。	14世紀中ごろ	西ヨーロッパでは度々流行。特に1347年に始まった流行はヨーロッパ全土に波及し、全人口の1/3～1/4が亡くなったと言われている。	◎ローマ教皇の中には、ペストにまみれた町を見捨てて逃げ出す者がいた。カトリック教会はペストの恐怖におののく人々を救い出す力にはなれず、教会の権威が失墜した。 ◎ペストにより多くの人々が亡くなる中で、教会の権威が失墜するなど、これまでの社会の仕組みが機能不全に陥った。このような危機的状況にあって、どうすれば先が見えるか、どうすればいいのだろうかと人々が考える時代が来た。それが、広い意味での「ルネサンス」である。 ◎ルネサンスの思想は宗教改革にも影響を与えた。